

事例番号:280018

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 3 日

7:15 陣痛発来のため入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 3 日

11:15 陣痛弱くオキシトシン点滴開始

11:20 陣痛発作急に強まり力が入る状態、子宮口全開大、児頭の位置

Sp+3cm

11:21 胎児心拍数 70 拍/分台持続

11:35 急速遂娩考慮し鉗子分娩準備していたところ、排臨、発露

11:40 児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 3 日

(2) 出生時体重:2700g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:実施せず

(4) Apgar スコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 2 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:出生当日 新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 11 日頭部 MRI で拡散強調像で異常な信号は認めない、髄鞘化は正常、脳実質に明らかな異常信号を認めない

1 歳 2 ヶ月頭部 MRI で両側視床に軽度信号異常を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分: 診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 1 名、准看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は児娩出直前に発症した胎児低酸素・酸血症による低酸素虚血性脳症であると考ええる。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、臍帯圧迫による血流障害の可能性が高いが常位胎盤早期剥離の可能性もある。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は概ね一般的である。

2) 分娩経過

(1) 分娩のための入院時胎児心拍数モニタリングを行い、胎児の健常性を確認したことは一般的である。

(2) 子宮収縮薬を使用開始した時刻(診療録によれば 11 時 15 分、家族からみた経過によれば 10 時 30 分)において、陣痛周期は平均的であるが(10 分間に 4 回)が、1 回ごとの子宮収縮の強さは弱くなったと判断し、子宮収縮薬を使用したことは選択肢としてありうる。子宮収縮薬の投与開始量、投与方法は一般的である。オキシトシンによる陣痛促進について、文書による説明同意を得ていないことは一般的ではない。

(3) 11 時 21 分から胎児徐脈が出現し、分娩室使用中のため手術室に移動し、急速遂娩の準備をしていたところ、児が下降してきたため会陰切開を入れ 11

時 40 分に見娩出に至った経過はやむをえない。

(4) 胎盤病理組織学検査を行ったことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生に関しては概ね一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 子宮収縮薬使用時には文書による同意を得ることが望まれる。

(2) 本事例では、分娩室使用中のため手術室へ移動の時間を要している。分娩室が使用できない状況でも、胎児の緊急的事態に迅速に対応できるよう、施設における手順を決めておくこと、ならびに普段よりシミュレーション等を行い、体制を整えておくことが望まれる。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を行うことが望まれる。臍帯動脈血が採取できない場合でも、臍帯静脈血ガス分析値が参考となるため、臍帯静脈血を採取し、臍帯血ガス分析を行うことが望まれる。ガス分析装置がない場合は、臍帯動脈血を採取し氷温に保存、NICU 搬送時に資料をわたし、NICU で測定することも一法である。

【解説】 児が仮死で出生した際は、臍帯血ガス分析を行うことによって、分娩前の胎児低酸素症の状態を推定することが可能である。臍帯血が採取できなかつた場合には、新生児の生後 1 時間以内の動脈血ガス分析を参考とすることも可能である。

(4) 本事例は、子宮収縮薬の中止時間の記載が不十分であった。観察した事項および実施した処置等に関しては、診療録に正確に記載することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

当該分娩後の事例検討や再発防止のためのシステム改善はなされていないが、新生児仮死症例においては、事後の検討が必要である。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

新生児科医の立ち会い依頼や新生児搬送を速やかに行うために、周産期母子医療センターなど高次医療機関のより一層の整備が望まれる。